「自分は大丈夫」なんて
思っていませんか?

どんなに願っても、「いつか」は必ずやってきます
「いつか」を想像しながら「自分の防災」を考えるマイ防災をはじめましょう

伊予市
河川防災マップ
はじめよう マイ防災
重信川版

伊予市の防災
はじめよう
防災

いつか起こる災害を知って、いざという時に備える

伊予市

わが家の連絡先リスト

伊予市の防災
はじめよう
防災

家族の名前	生年月日	血液型	勤務先・学校名	電話番号	備　考

ライフライン名	電話番号	ご近所さんのお名前	電話番号
病院(　　　　)			
ガス会社			
電力会社			
水道			

日曜・祝日の救急当番医
https://www.city.iyo.lg.jp/kenkou/kurashi/kenko/kyukyu/index.html

いざというときの連絡先

消防(火災・救急・救助)	119	海上保安庁(海の事件・事故)	118
警察(事件・事故)	110	NTT災害用伝言ダイヤル(安否確認)	171

市役所・支所・消防署など

伊予市の市外局番は「089」

施設名	所在地	電話番号	施設名	所在地	電話番号
伊予消防等事務組合消防本部・伊予消防署	下吾川 950-3	982-0119	伊予市役所	米湊 820	982-1111
			中山地域事務所	中山町出渕 2 番耕地 138	967-1111
中山出張所	中山町中山丑 508	967-1171	佐礼谷支所	中山町佐礼谷甲 816-1	968-0001
双海出張所	双海町上灘甲 5818-1	986-0074	双海地域事務所	双海町上灘甲 5821-6	986-1111
伊予警察署	伊予市下吾川 960	982-0110	下灘支所	双海町串甲 3670-16	987-0111

火災・救急病院の問い合わせ(テレホンサービス)

火災案内	982-8899
救急病院案内	982-5959

伊予市
制作:伊予市総務部危機管理課
〒799-3193　伊予市米湊820番地
TEL:089-982-1218
印刷:セキ株式会社
GREEN PRINTING JFPI
P-B10260
この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。
FSC　ミックス　責任ある木質資源を使用した紙　FSC® C006732

ハザードマップの作成にあたって使用した地図データは、国土地理院発行の数値地図(国土基本情報)の最新データですが、経年変化によって現状と一致しない箇所が発生しておりますのでご了承ください。ハザード情報についてはあくまでおおよその位置を確認する参考図であり、境界や範囲などを明示するものではありません。また、災害情報のデータや避難所などの防災情報は2022年3月現在のもので、今後変更になる可能性がありますのでご注意ください。本誌の表紙、啓発記事及び地図については伊予市の承諾なしに複写、転載することはご遠慮ください。

2022年3月発行

避難先について

いざという時のために、家族で話し合って避難行動を決めておきましょう。

事前の確認

ハザードマップをよく見ること、避難ルートを歩いてみることが肝心です。

①ハザードマップで確認する

自宅周辺が高潮浸水想定区域に入っていないか、ハザードマップで浸水リスクを確認しましょう。避難所や土砂災害リスクのある場所もチェックします。

②家族会議で決めておく

どこへどのように避難するか、家族で話し合っておきましょう。避難先・避難ルート・誰と一緒か・何を持っていくかなどを検討します。

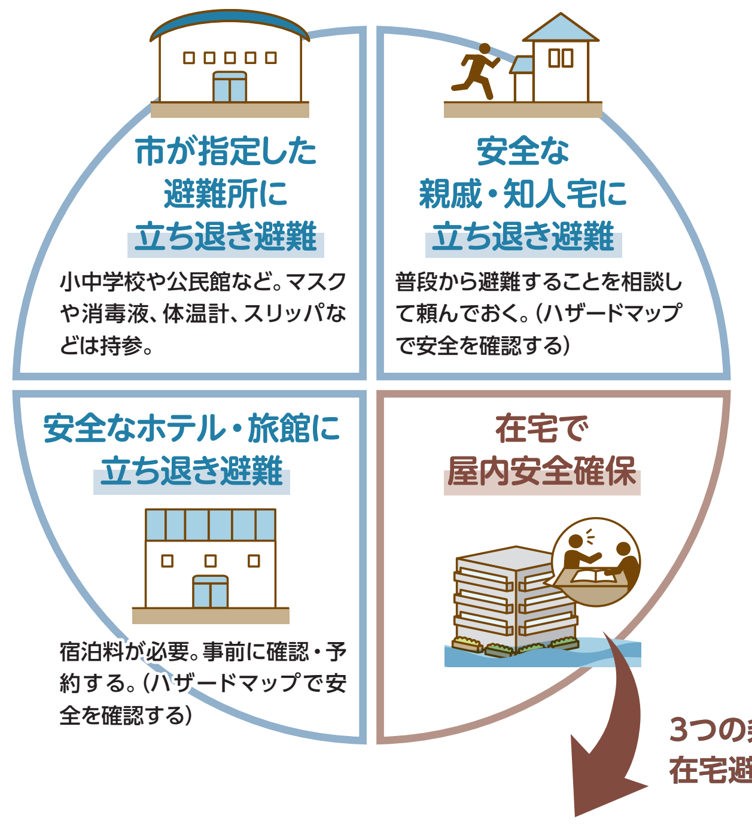
③避難シミュレーションを行う

平時の雨の日に、避難ルートを自分の足で歩いてみましょう。シミュレーションをしておくと、有事の際に落ち着いて行動できます。

避難先を考える

避難先は複数考えておきましょう。自宅の安全確保が可能なら在宅避難もOKです。

普段からどう行動するか、決めておこう!



市が指定した避難所に立ち退き避難
小中学校や公民館など。マスクや消毒液、体温計、スリッパなどは持参。

安全な親戚・知人宅に立ち退き避難
普段から避難することを相談して頼んでおく。(ハザードマップで安全を確認する)

安全なホテル・旅館に立ち退き避難
宿泊料が必要。事前に確認・予約する。(ハザードマップで安全を確認する)

在宅で屋内安全確保

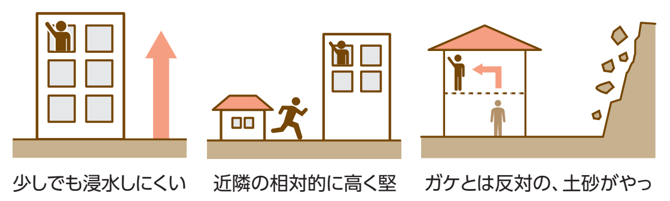
3つの条件を満たせば在宅避難も可能

立ち退き避難が基本

基本は立ち退き避難ですが、小中学校などの指定避難所へ行くことだけが避難ではありません。避難所に集中しないよう分散避難の観点からも複数の避難先を考えておき、状況にあわせて選びましょう。
浸水害のおそれがある時は、条件を満たせば自宅等建物の上階へ避難して身の安全を守る屋内安全確保も可能です。

⚠ 逃げ遅れたら命を守る行動を!

災害が発生または切迫して外に出るのが危険な時、夜間で見通しがきかず事態が悪化している時などは、最終手段として下例のように直ちに身の安全を確保してください。ただし、これは次善の行動なので命の安全は保証されません。

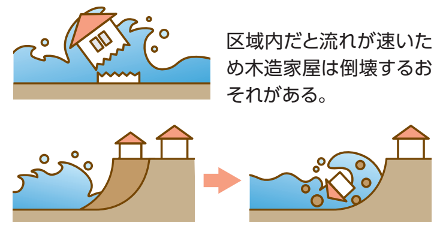


少しでも浸水しにくい高い場所に垂直避難する。

近隣の相対的に高く堅牢な建物の上階へ移動する。

ガケとは反対の、土砂がやってくる可能性の低い部屋に移る。

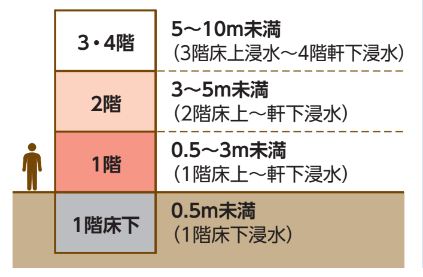
条件1
自宅等が家屋倒壊等氾濫想定区域にない。伊予市では大谷川の浸水想定の一部にこの区域がある。



区域内だと流れが速いため木造家屋は倒壊するおそれがある。

区域内だと地面が削られて建物ごと崩落するおそれがある

条件2
自宅等が浸水区域内にあるが、想定されている浸水深より居室が高い。



3・4階	5~10m未満 (3階床上浸水~4階軒下浸水)
2階	3~5m未満 (2階床上~軒下浸水)
1階	0.5~3m未満 (1階床上~軒下浸水)
1階床下	0.5m未満 (1階床下浸水)

条件3
水が引くまでの時間を過ごすことができる備え等が十分にある。

水・食料・薬などが十分にあり、電気・ガス・水道・トイレの使用不可にも耐えられる。

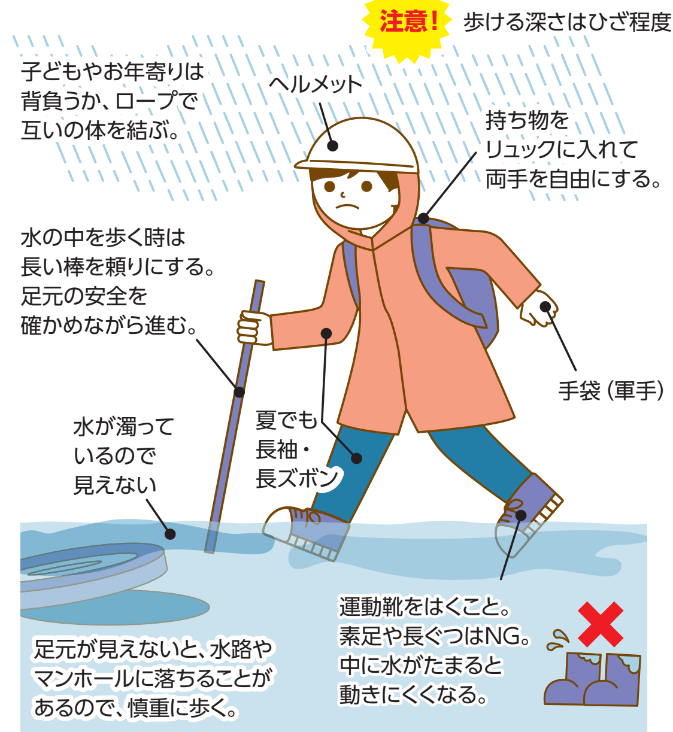
注意!
土砂災害は必ず立ち退き避難
土砂災害は突発的に起こるので、発生してから避難することが難しく、家屋を壊してしまう破壊力があるので、立ち退き避難が原則です。

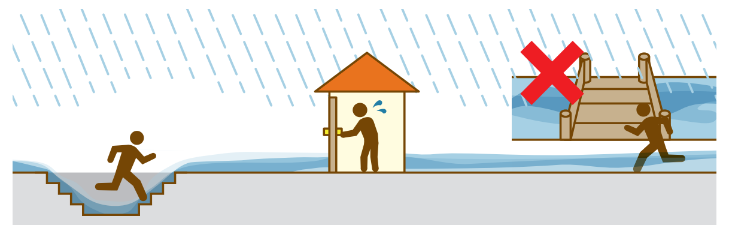
避難時のポイント

洪水が起こると数分でみるみる町が浸水します。空振りになっても早めに避難しましょう。

安全に避難するために

移動時のポイントを頭に入れておきましょう。

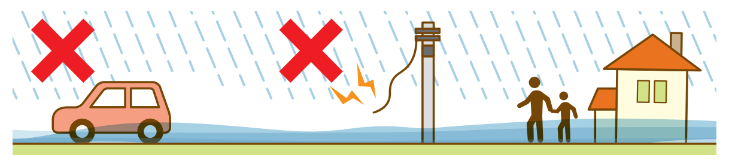

注意! 歩ける深さはひざ程度まで
子どもやお年寄りは背負うか、ロープで互いの体を結ぶ。
ヘルメット
持ち物をリュックに入れて両手を自由にする。
水の中を歩く時は長い棒を頼りにする。足元の安全を確かめながら進む。
手袋(軍手)
水が濁っているので見えない
夏でも長袖・長ズボン
足元が見えないと、水路やマンホールに落ちることがあるので、慎重に歩く。
運動靴をはくこと。素足や長ぐつはNG。中に水がたまると動きにくくなる。



地下空間にいたらすぐ地上へ
地下へは水が一気に流れ込む。逃げ遅れる前に、すぐに地上に上がる。

ドアは水圧で開かなくなる
扉の外に30cm水がたまると水圧で扉が開かなくなるので、その前に避難。

川や橋、がけに近づかない
できるだけ川や橋、がけから離れて避難する。ルートは日頃から確認する。



車は使わず徒歩で避難
交通渋滞や緊急車両を妨害し、浸水時はエンジントラブルで立ち往生してしまうため。

切れた電線に触らない
切れた電線や垂れ下がった電線は、感電のおそれがあるので、触らない、近づかない。

家を出る前に火の元等の確認
ガスの元栓を閉めてブレーカーを落とす。カギをかけて避難先のメモを残す。

避難の心得

避難時の心構えをおさえておきましょう。

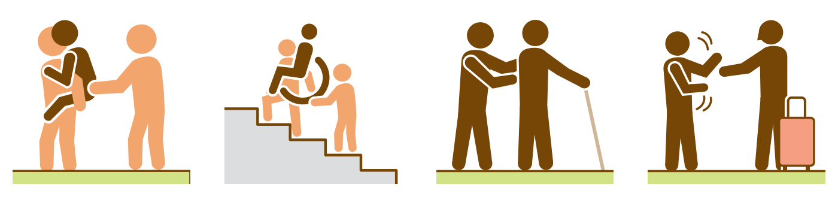
その1　正確な気象情報を収集する
テレビ・ラジオ、防災行政無線などから正確な情報を集める。

その2　自主的に早めに避難する
暗くなる前や暴風になる前に、早めの自主避難を心がける。

その3　単独行動はしない
必ず二人以上で、動きやすい服装で行動する。

その4　無理をしない
逃げ遅れたら、無理をせずに、高い所で命を守る行動を。

その5　協力しあって避難する
日頃からコミュニケーションを大切にし、隣近所に声をかけあって避難する。地域のどこに自力で避難できず支援を必要とする人がいるか、できるだけ把握しておく。


高齢者・病人
体の不自由な人
目や耳の不自由な人
外国人

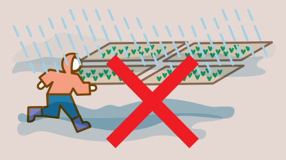
⚠ 災害に弱い人の避難は、より早めに行いましょう。

大雨や台風接近時の注意

- **貴重品や電気製品などを高い所へ移す**

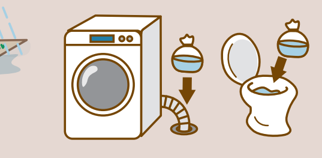
浸水リスクがある場合は、書類や貴重品、電気製品、アルバムなどを高い所へ移動させる。

- **田んぼや畑、用水路の見回りをしない**



増水した用水路と道との境がわからないため、農業用水路に転落する死亡事故が発生している。

- **洗濯やお風呂の排水を控える**



洗濯機を回さない、風呂の湯を抜かないなど排水を控える。下水の逆流を防ぐため、水のうを置く。

- **排水溝や雨水ますの水が流れるように**

屋外の排水溝や道路上の雨水ますを掃除して、土砂や落ち葉による詰まりを解消する。

- **冠水道路に車で進入しない**

水深30cm程度で吸気口やマフラーから浸水し、エンジンが停止して再始動しなくなる。

洪水の基礎知識

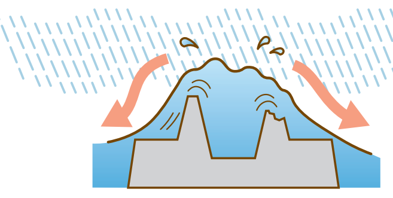
近年、前線の停滞による大雨やゲリラ豪雨のために各地で頻繁に洪水が起こっています。

洪水の種類

洪水とは大量の水があふれ出すことで、「河川氾濫」と「内水氾濫」に分けられます。

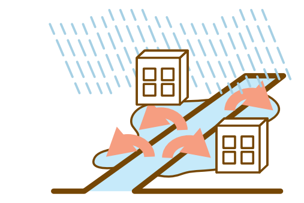
河川氾濫

大雨のため大きな河川が増水し、水が堤防を破壊したり堤防を越えたりしてあふれ出ること。大量の水が勢いよく流れ出るので、住宅の倒壊や人的被害を引き起こします。



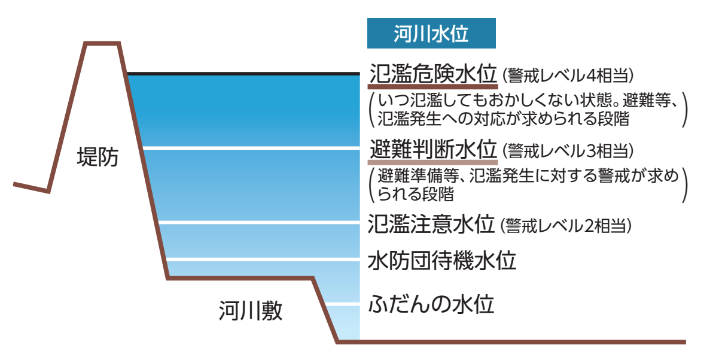
内水氾濫

市街地に多量の雨が降ると下水道や水路の処理能力が追いつかず、下水道やマンホール、水路から水があふれ出すこと。土地や建物が浸水するので浸水害と呼ばれることも。



1時間に40mm以上の雨は下水があふれ出すおそれ
下水道の排水処理は1時間40mm前後を考えて設計されているので、それを超えると下水があふれ出して内水氾濫のおそれがあります。

大雨になったら水位情報を確認しよう


河川水位
氾濫危険水位(警戒レベル4相当)
(いつ氾濫してもおかしくない状態。避難等、氾濫発生への対応が求められる段階)
避難判断水位(警戒レベル3相当)
(避難準備等、氾濫発生に対する警戒が求められる段階)
氾濫注意水位(警戒レベル2相当)
水防団待機水位
ふだんの水位
堤防
河川敷

重信川・大谷川の氾濫危険水位と避難判断水位

	重信川(出合)	大谷川(下三谷)
氾濫危険水位	5.1m	1.7m
避難判断水位	4.6m	1.4m

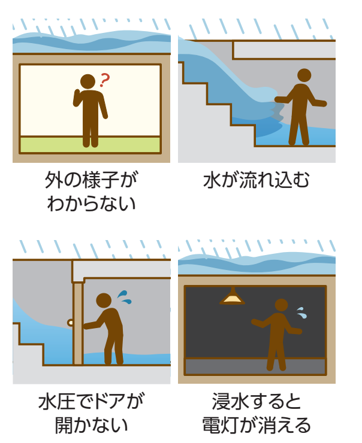
国土交通省
川の防災情報

全国の水位情報は「国土交通省 川の防災情報」
https://www.river.go.jpでわかります。
伊予市は次の河川に設置されています。
・大谷川※　・森川　・中山川　・上灘川　・豊田川
※最新カメラ画像も見られます。

都市型水害について

排水機能の不全が原因で起こる内水氾濫はとりわけ都市部で発生します。市街地はコンクリートやアスファルトで覆われ雨が地中に浸透しにくいため、水が一気に水路や下水道に集まるからです。地下などの低い場所や中小河川も注意が必要です。

- **地下空間での浸水被害**
  地下室・地下街・地下駐車場などでは、地上が冠水すると地下へ水が流れ込み、電気系統の停止で停電になるなどの危険があります。
- **アンダーパスでの事故**
  アンダーパスが大雨に見舞われると、道路が冠水して進入した車はエンジンが止まって立ち往生、水圧でドアが開かない危険があります。

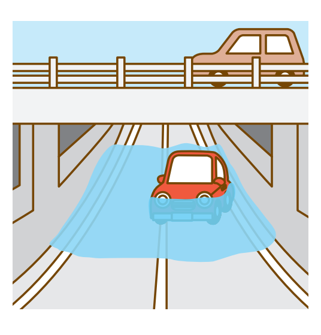


外の様子がわからない

水が流れ込む

水圧でドアが開かない

浸水すると電灯が消える



- **過去に内水氾濫の起こった場所**
  排水処理能力に注意が必要な場所なので、再び浸水害のおそれがあります。

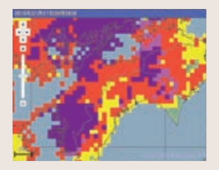
「キキクル」危険度の高まりを地図に表示

大雨がひき起こす災害発生の危険度を地図上で確認できるのが、気象庁提供の「キキクル」。"危機が来る"から付けられた愛称で、どの地域で危険度が高まっているか、5段階の色分けで表示されます。

- **「洪水キキクル」**
  洪水警報の危険度分布
  大雨による中小河川の洪水災害発生の危険度の高まりを表示。大河川の指定河川洪水予報も確認できる。

- **「浸水キキクル」**
  大雨警報(浸水害)の危険度分布
  下水道などで排水できないほどの大雨が降った時に浸水害が発生する危険度の高まりを表示。

- **「土砂キキクル」**
  大雨警報(土砂災害)の危険度分布
  大雨による土砂災害の危険度の高まりを地図上で1km四方のメッシュごとに表示。



※画像は気象庁HP>知識・解説>キキクル(警報の危険度分布)>過去事例より

5段階の色が持つ意味
- 🟪 極めて危険　警戒レベル4相当
- 🟪 非常に危険　警戒レベル4相当
- 🟥 警戒　警戒レベル3相当
- 🟨 注意　警戒レベル2相当
- ☐ 今後の情報等に留意

避難情報・風雨の目安

防災気象情報の種類と内容・避難情報を知っておきましょう。

避難のタイミングを伝える

市町村は、雨や河川の情報のほか地域の土地利用や災害実績などを踏まえて、総合的に避難情報(警戒レベル)を発令します。気象情報などで早めに自主避難を行い、避難情報で確実に避難しましょう。

警戒レベル	市民の皆さんがとるべき行動	避難情報等	警戒レベル相当情報
警戒レベル5 命の危険 直ちに安全確保	災害が発生・切迫している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	緊急安全確保 (伊予市が発令)※	氾濫発生情報 大雨特別警報 など
《警戒レベル4までに必ず避難!》			
警戒レベル4 危険な場所から全員避難	速やかに避難行動をとりましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所への避難や自宅内のより安全な場所に避難しましょう。	避難指示 (伊予市が発令)	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 など
警戒レベル3 危険な場所から高齢者等避難	ご高齢の方、障がいのある方、乳幼児など、避難に時間のかかる人とその支援者は避難行動をとりましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難 (伊予市が発令)	氾濫警戒情報 大雨警報 など
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。		大雨注意報 など (気象庁が発表)
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。		早期注意情報 (気象庁が発表)

※可能な範囲で発令されるものであり、必ずしも発令されるものではないことに注意してください。

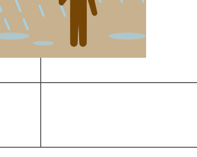
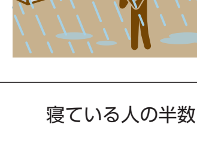
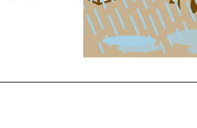
大雨に関する気象庁からの注意報・警報

▶大雨・洪水注意報
大雨により災害が発生するおそれがあるときに発表されます。

▶大雨洪水警報
大雨により重大な災害が発生するおそれがあるときに発表されます。

▶大雨特別警報
台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に発表されます。すでに災害が発生している可能性が高く、大雨特別警報発表までに避難することが重要です。

雨の強さと被害

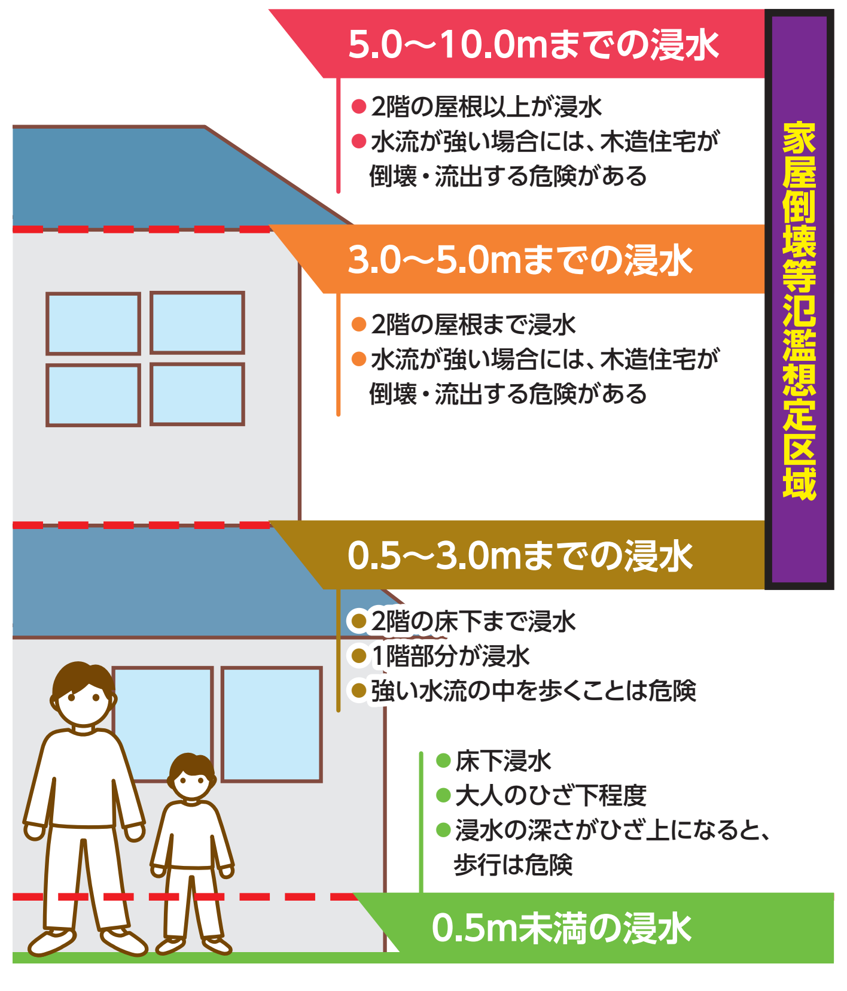
1時間雨量(mm)	10以上~20未満	20以上~30未満	30以上~50未満	50以上~80未満	80以上~
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる 	傘をさしていてもぬれる		傘は全く役に立たなくなる	
屋内(木造住宅を想定)	雨音で話し声が聞き取りにくい	寝ている人の半数くらいが雨に気づく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる。		道路が川のようになる。マンホールから水が噴出。土砂災害が起こりやすくなる。	水しぶきで辺りが白くなり、視界が悪くなる。大規模災害の発生するおそれがあり、厳重な警戒が必要。	
車に乗っていて		ワイパーを速くしても前が見づらい	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)	車の運転は危険	

浸水の高さを確認

浸水のリスクを事前に知り、いざというときにあわてず安全に避難できるように備えましょう。

浸水深の目安

自宅や職場、学校が浸水想定区域かどうか、その区域なら浸水深はどれくらいか確認しておきましょう。



5.0~10.0mまでの浸水
- 2階の屋根以上が浸水
- 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊・流出する危険がある

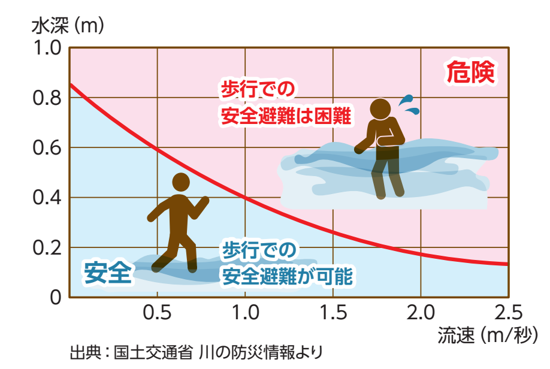
3.0~5.0mまでの浸水
- 2階の屋根まで浸水
- 水流が強い場合には、木造住宅が倒壊・流出する危険がある

0.5~3.0mまでの浸水
- 2階の床下まで浸水
- 1階部分が浸水
- 強い水流の中を歩くことは危険

0.5m未満の浸水
- 床下浸水
- 大人のひざ下程度
- 浸水の深さがひざ上になると、歩行は危険

知っておきたい氾濫水の特徴

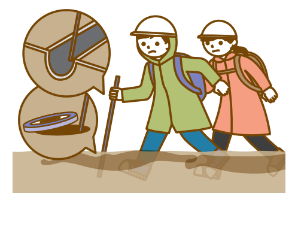
ポイント1　勢いが強い
氾濫流は勢いが強く、水深がひざ程度あると大人でも歩くのが困難です。逃げ遅れたときは緊急避難として、高い頑丈な建物に待機することも選択肢の1つです(津波の場合を除く)。



出典:国土交通省 川の防災情報より

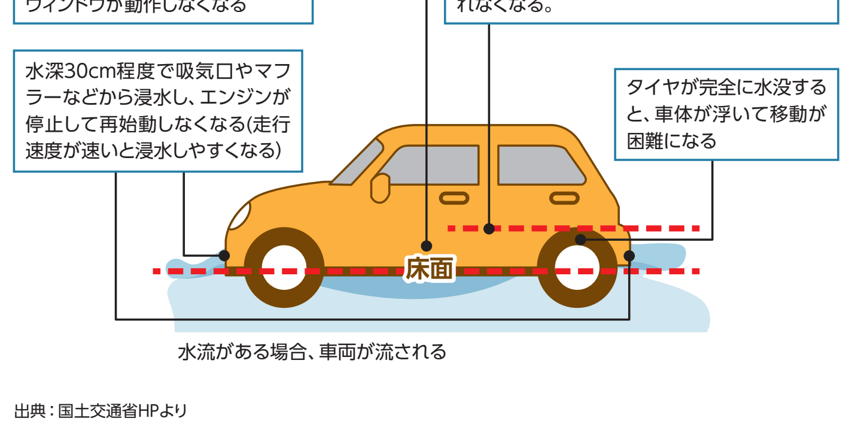
浸水深が0.5m(大人のひざ)を超えると、氾濫水流が0.7m/秒ほどでも、ほとんどの人は避難が困難になる。

ポイント2　濁っている
浸水している場合、水は茶色く濁っており、水路と道路の境やふたが開いているマンホールの穴は見えません。やむを得ず水の中を移動するときは、棒で足元を確認しながら移動しましょう。



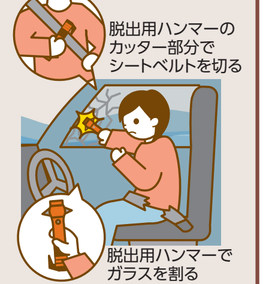
車は水深が床面を超えたらもう危険

水害時、車での避難中に命を落とす事故が増えています。一般的に浸水深が30cm以上では車の走行が困難に。50cm以上では車が浮いたり、パワーウィンドウ車では車内に閉じ込められたりするなどとても危険です 。


水深が床面を超えると電気装置が損傷し、自動スライドドアやパワーウィンドウが動作しなくなる
水深がドアの下端にかかると、車外の水圧により内側からドアを開けることが困難に。ドア高さの半分を超えると、内側からほぼ開けられなくなる。
水深30cm程度で吸気口やマフラーなどから浸水し、エンジンが停止して再始動しなくなる(走行速度が速いと浸水しやすくなる)
タイヤが完全に水没すると、車体が浮いて移動が困難になる
床面
水流がある場合、車両が流される

出典:国土交通省HPより

- **運転中に車両が水中に入ってしまった場合**
  まずシートベルトを外し、窓を開け、脱出。
  〈窓が開かない場合〉
  水面より上にあるドアガラスまたはリヤガラスを緊急脱出ハンマーなどで割って脱出。
  〈ガラスが割れない場合〉
  車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ち、ドアを開け脱出。


脱出用ハンマーのカッター部分でシートベルトを切る
脱出用ハンマーでガラスを割る

⚠ 自動車に「緊急用ハンマー」の備えを
緊急時にはシートベルトがロックしてしまうことがあるので、シートベルトカッター付きハンマーがよい。手の届く場所に固定しておく。

- **浸水・冠水後の車両の対処**
  外観上、問題なさそうでも、感電事故や電気系統のショートによる車両火災のおそれあり。いきなりエンジンをかけないこと。使用したい場合は販売店・最寄りの整備工場に問い合わせを。

情報収集と家族の連絡方法

災害後、正しい情報をいち早く手に入れることが重要です。情報の入手方法を事前に知っておきましょう。

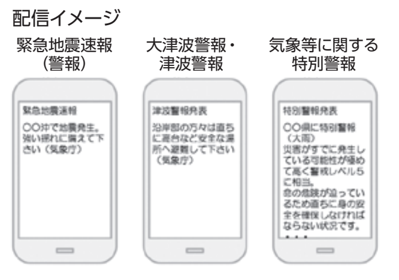
情報の入手方法

複数の方法での情報入手を普段から利用しておきましょう。

①メール配信

緊急速報メール・エリアメール(事前登録不要)
携帯電話での災害時専用の情報発信。気象庁が発信する緊急地震速報が一斉配信される。

配信イメージ


緊急地震速報(警報)
大津波警報・津波警報
気象等に関する特別警報
緊急地震速報
○○沖で地震発生。強い揺れに備えて下さい(気象庁)
津波警報発表
沿岸部の方々は直ちに高台など安全な場所へ避難して下さい(気象庁)
特別警報発表
○○県に特別警報(大雨)
災害がすでに発生している可能性が極めて高く警戒レベル5に相当。
命の危険が迫っているため直ちに身の安全を確保しなければならない状況です。

行政機関から(事前登録必要)

伊予市安心・安全メール
通常の市の広報をはじめ、気象庁発表の情報、災害時の避難指示などの情報を提供。

愛媛県防災メール
地震・津波・気象注意報、土砂災害警戒情報や避難指示・避難所開設などの防災情報を配信。

②テレビ・ラジオ

Lアラート(災害情報共有システム)を通じて、テレビやラジオで伊予市が発表する災害対策本部の設置、避難所の開設、避難指示などの情報を放送。災害の心配があるときは、テレビやラジオをつけておくこと。

- **伊予市からの情報をテレビで**
  令和3年度からテレビ愛媛で、行政情報をリアルタイムで確認できる。災害時には市からの防災情報が届く。

テレビ愛媛　操作方法
1. テレビのｄボタンを押す
2. メニューから「市町の広報」を押す
3. 「伊予市」を押す
4. 見たい項目のタイトルを押す

③伊予市公式SNS

過去の災害でTwitterなどSNSは比較的繋がりやすかったという声がある。情報収集方法の一つとして活用を。

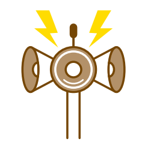
- **伊予市危機管理Twitter**
  伊予市総務部危機管理課から災害情報などを発信
- **伊予市の公式LINE開始**
  令和4年2月から伊予市公式LINEがスタート。災害時の緊急情報が届くほか、道路や河川等の異常を報告できるメニューも。

④伊予市公式ホームページ

災害の状況を詳しく知りたい場合に役立つ。各種警報や避難情報などの発令状況、被害状況、道路状況など掲載。

⑤伊予市防災行政無線

災害時に市内150ヶ所の屋外スピーカーからの防災・災害情報が放送される。聞こえにくい場合や、再度聞きたい場合は電話で確認できる。



- **電話応答サービス**　TEL 089-946-7977(要・通話料)

⑥スマホアプリ

信頼できる情報を自動で入手できるアプリ選んでおく。

〈役立つアプリ例〉

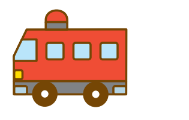
Yahoo!防災速報
避難情報や、自治体からの緊急情報をリアルタイムで通知する。

愛媛県避難支援アプリ「ひめシェルター」
防災情報、避難所開設情報などが届き、地図で避難先が分かる。

Android 版　IOS 版

⑦広報車

市有車両や消防団車両によるマイク放送。



コラム column　「バイアス」と「デマ」

- **バイアスとは?**
  危険が迫っていても、自分は大丈夫と状況を過小評価してしまうことがあります。「正常性バイアス」という、自らの心を落ち着けようとする心理作用です。逃げ遅れの原因となることを知っておきましょう。
- **デマに注意**
  災害後はデマが広がりやすくなります。信頼できる情報源から入手するようにしましょう。

家族との連絡の取り方

非常時の連絡方法は複数使えるようにしておきましょう。
あらかじめ家族で下記の連絡ルールを決めておくことが大切です。
①集合場所・避難場所　②災害時の連絡手段　③自宅に行き先のメモを残す場所・方法

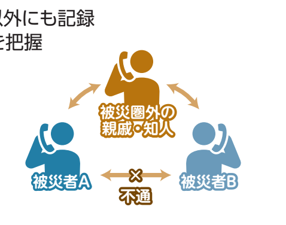
〈災害用伝言サービス〉

災害用伝言ダイヤル「171」
被災地域の市外局番から始まる自宅番号宛に安否情報を音声で録音(30秒)。全国からその音声を再生・確認できる。

災害用伝言版web171
インターネットでの安否確認。家族らとあらかじめ決めている登録の電話番号に音声・文字を入れると、メールや電話で伝言が届く。

災害用伝言板サービス
携帯電話各社が提供するもので、スマートフォンや携帯電話から安否情報の伝言を文字で登録すると、全国から伝言が確認できる。

チェック!

- **公衆電話対策**
  - どこにあるか確認
  - 使い方を子どもに教える
  - 小銭を用意
- **連絡先の備え**
  - 大切な電話番号はスマホ以外にも記録
  - 家族の交友関係や連絡先を把握
- **三角連絡法**
  災害時は電話がつながりにくくなる。災害圏外にいる親戚や知人を中継地点にすると、比較的スムーズに連絡が取れる場合がある。